

復興へ再度激励

義援金贈った 横浜の経営者 タカノ関係者を訪問

新潟県中越地震後、タカノ長岡営業所（市内片田町）に義援金を贈った

横浜市のIT関連企業、アイスタッフ社長の森田翼さんは10日、約10カ月

ぶりに長岡市を訪れ、タカノの関係者らと再会して激励し合った。

の星野本店（市内撰田屋2）などを訪れた。星野

本店では、栃尾のあぶらげやのつべなど郷土料理が振る舞われた。タカノの宮正行さんは「民間が主導する地域の中で、もてなしたかった。いくつもの選択肢のある中で新潟県に来ていただけなのはありがたい。被災者の頑張っている姿を見てほ

しい」と話していた。また、森田さんは地震から約10カ月が過ぎた市内の印象を「道路は復旧工事が進められ、仮設住宅にはいまだ多くの被災者が生活している。復興に向けて厳しい状況は続くだろうが、頑張っている」と語っていた。



森田さんは旧山古志村からヘリコプターを使い牛を救出する姿をテレビで見てもたつてもいられず長岡行きを決意。昨年11月初旬はまだ上越新幹線が不通だったため空路で新潟入りした。長岡到着後、タカノに義援金を贈った。

この日は、森田さんとともに同社の社員約30人が妙見町の土砂崩落現場やみそ、しょうゆ醸造元

地震後に義援金を送り、再度長岡を訪れた森田さんらを囲み行われた昼食会。義援金を贈られたタカノの関係者も出席した